

海外出張報告書

令和7年3月12日

名古屋市会議長
田 中 里 佳 様

名古屋市会議長 田 中 里 佳

名古屋市会議員 中 里 高 之

名古屋市会議員 小川としゆき

名古屋市会議員 金 庭 宜 雄

令和6年10月16日付の議決に基づき、令和6年10月29日から11月5日までの間、名古屋市会ロサンゼルス市姉妹都市提携65周年記念公式代表団として、ロサンゼルス市及びサンディエゴ市へ出張しましたので、その概要を報告いたします。

(随行)

名古屋市会事務局

担当課長(秘書) 佐 竹 亮 一

議員の派遣

令和6年10月16日

地方自治法第100条第13項及び名古屋市会会議規則第54条の2の規定により下記のとおり議員を派遣する。

記

名古屋市会ロサンゼルス市姉妹都市提携65周年記念公式代表団

- (1) 派遣目的 ロサンゼルス市表敬訪問
姉妹都市提携65周年記念交流行事参加
産業経済状況調査
再生可能エネルギー施策調査
動植物園施策調査
科学館施策調査
児童・青少年育成施策調査
- (2) 派遣場所 ロサンゼルス市、サンディエゴ市
- (3) 派遣期間 令和6年10月29日から11月5日まで
- (4) 派遣議員
- | | | |
|---------|---------|---------|
| 田 中 里 佳 | 中 里 高 之 | 小 川としゆき |
| 金 庭 宜 雄 | | |

目 次

はじめに	1
日程	2
10月29日(火)	
ジェットロ・ロサンゼルス事務所	3
10月30日(水)	
サンディエゴ市役所	8
サンディエゴ動物園	14
10月31日(木)	
就学前児童施設(Parsons Preschool)	19
ロサンゼルス市役所	25
在ロサンゼルス日本国総領事館	29
11月1日(金)	
ロサンゼルス港	31
11月2日(土)	
名古屋デー2024 エクスプロア・ナゴヤ・セントラル・ジャパン.....	36
姉妹都市提携65周年記念レセプション・夕食会.....	40
11月3日(日)	
ロサンゼルス動植物園	43
カリフォルニア科学センター	49
おわりに	53

は じ め に

田中里佳議長を団長に、自由民主党名古屋市会議員団、名古屋民主市会議員団、公明党名古屋市会議員団の各会派代表からなる名古屋市ロサンゼルス市姉妹都市提携65周年記念公式代表団一行は、令和6年10月29日(火)に日本を出国し、ロサンゼルス市及びサンディエゴ市を訪問し、表敬訪問、姉妹都市提携65周年記念交流行事への参加及び調査を行い、同年11月5日(火)に帰国した。

ロサンゼルス市では、産業経済状況調査としてジェットロ・ロサンゼルス事務所へ赴き、ロサンゼルス市を中心とした南カリフォルニアの経済事情などについて説明を聴取するとともに意見交換を行った。また、児童・青少年育成施策調査として就学前児童施設(Parsons Preschool)へ赴き、視察を行うとともに意見交換を行った。また、同調査としてロサンゼルス市役所へ赴き、青少年に向けたスポーツ施策(Play LA)について説明を聴取するとともに意見交換を行った。また、表敬訪問として在ロサンゼルス日本国総領事館へ赴き、名古屋市とロサンゼルス市の姉妹都市交流について意見交換を行った。また、ロサンゼルス市表敬訪問・姉妹都市65周年記念交流行事としてロサンゼルス港湾局・昼食会、名古屋デー2024 エクスプロア・ナゴヤ・セントラル・ジャパン、レセプション・夕食会に赴き各種行事に参加した。また、動植物園施策調査としてロサンゼルス動植物園へ、科学館施策調査としてカリフォルニア科学センターに赴き、それぞれ視察を行った。

サンディエゴ市では、再生可能エネルギー施策調査としてサンディエゴ市役所へ赴き、再生可能エネルギーの導入促進施策について説明を聴取するとともに意見交換を行った。また、動植物園施策調査としてサンディエゴ動物園に赴き、視察を行うとともに意見交換を行った。

以下、両都市において行った表敬訪問、姉妹都市提携65周年記念交流行事及び調査の概要を、日を追って順に報告する。

名古屋市会ロサンゼルス市姉妹都市提携65周年記念公式代表团 日程

日 付	地 名	日 程
10/29(火)	名古屋駅 羽田空港	・鉄道 東京へ ・空路 ロサンゼルスへ
	ロサンゼルス国際 空港	
	ロサンゼルス市	○ジェットロ・ロサンゼルス事務所 【サンディエゴ泊】
10/30(水)	サンディエゴ市	○サンディエゴ市役所 ○サンディエゴ動物園 【ロサンゼルス泊】
10/31(木)	ロサンゼルス市	○就学前児童施設 (Parsons Preschool) ○ロサンゼルス市役所 ○在ロサンゼルス日本国総領事館 【ロサンゼルス泊】
11/ 1 (金)	ロサンゼルス市	○ロサンゼルス港 ・表敬訪問 ・レセプション・昼食会 【ロサンゼルス泊】
11/ 2 (土)	ロサンゼルス市	○名古屋デー2024 ○姉妹都市提携65周年記念レセプショ ン・夕食会 【ロサンゼルス泊】
11/ 3 (日)	ロサンゼルス市	○ロサンゼルス動植物園 ○カリフォルニア科学センター 【ロサンゼルス泊】
11/ 4 (月)	ロサンゼルス国際 空港	・空路 日本へ
11/ 5 (火)	羽田空港 名古屋駅	・鉄道 名古屋へ

令和6年10月29日(火)

- ◆10月29日に名古屋駅を出発した公式代表団一行は、羽田空港から空路でロサンゼルス国際空港へ向かい到着し、最初の訪問先である(独)日本貿易振興機構(ジェトロ)ロサンゼルス事務所にて産業経済状況の調査を行った。

ジェトロ・ロサンゼルス事務所(産業経済状況調査)

- 時 間 10月29日(火)午後2時から午後3時
■場 所 ジェトロ・ロサンゼルス事務所
■対応者 梶田 朗 ジェトロ・ロサンゼルス所長
堀永 卓弘 ジェトロ・ロサンゼルス調査部長

ジェトロ・ロサンゼルス事務所では、田中議長、梶田所長から、それぞれ挨拶があった後、サンディエゴ地域の経済状況・エネルギー政策についての説明を聴取し、質疑を行った。主な説明・質疑応答等の調査の概要は下記のとおりである。

■サンディエゴ地域の経済状況・エネルギー政策についての説明(概要)

【カリフォルニア州(南部)の各都市の経済概況について】

近年、ジェトロ・ロサンゼルス事務所へ多く寄せられる相談内容としては、日本企業からカリフォルニア州を含めた西海岸への進出がある。その要因としては、コロナ前に進出を検討してきた日本企業がコロナ禍からの回復基調の中、再検討していることやアメリカは先進国の中でも人口が増加しており企業にとっては市場規模が魅力的であること、特に、ロサンゼルスを含めたこの地域においては、日本との時差の影響がニューヨークなどの東海岸と比べ小さく、オンライン会議の開催が容易でコミュニケーションがとりやすいといった利点があるといったことが考えられる。

カリフォルニア州南部においては、ロサンゼルス郡(ダウンタウン・ハリ

ウッド・サントモニカ)、オレンジ郡(アーバイン)、サンディエゴ郡(サンディエゴ市)の3つの都市が中心となっている。この地域は年間を通して降雨量が少なく、気温の寒暖差が小さいといった特性がある。

オレンジ郡のアーバインを含めたロサンゼルス広域都市圏では、人口が約1,287万2千人、名目GDPが約1兆2,275億ドルとニューヨークに次ぎ全米2位となっており、サンディエゴ郡と共に一大経済圏を形成している。人種構成では、ロサンゼルスはヒスパニックが48.1%、アーバインはアジアが44.3%、サンディエゴは白人が41.5%と、比率の高い人種構成が異なるなど、多様で巨大な市場が存在していることが特徴となっている。

サンディエゴは、軍港として有名な地であり、かつては軍需産業を中心に栄えていたが、今では様相が変わり、良好な生活環境(「America's Finest City」と称されている)、有数の研究機関や教育機関の集積(カリフォルニア大学サンディエゴ校など)、多様な投資主体・支援組織(サンディエゴ発祥のバイオ産業団体など)を背景に、ビジネスエコシステムが発達した。



【梶田所長・堀永部長による説明】

賃金は、中間管理職の月収比較では、ロサンゼルスやサンディエゴでは12,000ドル超のところ、サンフランシスコやニューヨークでは15,000ドルほどになるなど、各業種の概ねの傾向として、米国内では比較的高いものの、サンフランシスコやニューヨークに比べると低い傾向である。

南カリフォルニア地域における日系企業の進出状況は、ジェトロ・ロサンゼルスが実施した調査によると、約1,200社が進出しており、その内の約4分の1はトーランス市に進出している。また、日系企業がカリフォルニア州へ進出する際のビジネス環境の障壁について、同様に調査したところ、家賃などの生活コストの高さ(89.8%)、法人税などの税金の高さ(57.1%)、従業員の採用・定着の難しさ(50.4%)、雇用法など労働関係の法制(43.4%)などとなっている。

【サンディエゴ地域のエネルギー政策について】

サンディエゴ市では、都市のイメージ向上やクリーンテクノロジー関連の産業振興といった観点から、産学官が連携して脱炭素化を推進している。サンディエゴ市では、2015年に気候変動計画を策定し、毎年目標への進捗状況をしっかり管理している。サンディエゴ市の温室効果ガスの削減目標は、2035年までに温室効果ガスをゼロにすることを掲げており、これは全米の中でも比較的高い削減目標を掲げているカリフォルニア州全体の目標値(2045年までに温室効果ガスをゼロにする)と比較しても10年も早く温室効果ガスゼロを達成するという高い目標設定となっている。

気候変動計画の特徴としては、6つの戦略(建築の脱炭素化・クリーンな再生エネルギーへのアクセス・移動手段と土地利用・サーキュラーエコノミーとクリーンコミュニティ・復元力あるインフラと健全なエコシステム・新たな気候変動対策)ごとに、2035年に向けた温室効果ガスの



【説明を聴取する様子】

削減目標を掲げ、その達成に向けた施策と行動を紐付けて取り組んでいくことで、温室効果ガス削減のための対象・量・手段を明確化していることである。

施策を推進していくに当たっては、行政だけでなく地元や近隣の関係機関・組織と連携しながら進めている。例えば、サンディエゴ大学内にはエネルギー政策を研究する組織が設置されており、サンディエゴ市は温室効果ガスの排出量・削減量の推定や予算の見積もりのためのコスト分析をサンディエゴ大学と連携して進めている。また、サンディエゴ市と近隣の自治体がサンディエゴ・コミュニティ・パワー(地域新電力会社)を設立し、再生エネルギー由来の電力を調達し、地域内の顧客に提供する役割を担っている。地域住民は、特段の手続きを取らない限り、サンディエゴ・コミュニティ・パワーと契約する仕組み(オプト・アウト)となっている。サンディエゴ・コミュニティ・パワーの料金については、他の電力会社と比べて、再生エネルギーによる電力供給をしている割合に応じて月額5ドルから10ドルほど高くなるが、顧客にとっては納得感のあるコスト高に

抑えられており、他の電力会社に切り替える退出率は4%ほどに抑えられている。

日本・アメリカ全体・サンディエゴのそれぞれの電源構成の内、再生可能エネルギーの占める割合を比べると、日本やアメリカ全体では約21%から22%ほどである一方、サンディエゴでは約45%となっており、大きな割合を占めている。サンディエゴの特徴として、人口1人あたりの太陽光パネル設置数がアメリカで最多となっていることもあり、サンディエゴの再生可能エネルギーのうち、太陽光発電の占める割合が約65%(次いで風力が33%)となっており、サンディエゴの気候(晴れている期間が多い、日照時間が長い)といった地理的な優位性はあるものの、産学官の連携の積み重ねの成果でもある。水素を活用した発電については、地域のガス・電力会社が水素生産・水素自動車への利用を行ったり、地域のガス・電力会社がカリフォルニア州立大学と連携し、水素混合天然ガスの影響調査を行ったりするなど活用に向けた取り組みを行っているところである。

■質疑応答(概要)

【質 問】

サンディエゴの電源構成において、再生可能エネルギーの割合が多い理由・背景として、住民の環境意識が高いことが考えられるが、そのあたりはどうか。



【質疑の様子】

【回 答】

カリフォルニア州は、全米の中で環境意識が高いといわれており、環境規制が厳しい地域となっており、裏を返せば、地域住民がその厳しい規制に理解を示し生活しているともいえる。この地域は、特に若い人たちの環境意識が高く、電気自動車に乗っている割合が高いといわれている。

【質 問】

先ほどの説明の中で、サンディエゴの特徴として、人口 1 人あたりの太陽光パネル設置数がアメリカで最多となっているとのことであったが、どんな設置形態が多いのか。



【質疑の様子】

【回 答】

さまざまな設置形態がある中、アメリカには、戸建て住宅が非常に多く、戸建て住宅の屋根に太陽光パネルを設置しているケースが多い。また、よく日本でも見られる設置形態であるが、空き地を活用して大規模な太陽光パネルを設置している形態もある。参考となるが、再生エネルギーの電源構成割合が太陽光発電に次ぐ風力発電においては、パームスプリングスに非常に大規模な風力発電設備を備えている。

【質 問】

水素の再生可能エネルギーへの活用について、ロサンゼルスでの具体的な取り組み状況についてはどうか。

【回 答】

水素の再生可能エネルギーの活用については、先ほどの説明のとおりサンディエゴが進んではいるが、ロサンゼルスでも取り組みを加速させている状況である。具体的には、名古屋港と姉妹港の関係にあるロサンゼルス港などで日本の自動車会社と米国のトラック会社とが提携し、燃料電池トラックの実証実験を行っている。港湾関係でも温室効果ガス削減のための目標を達成する必要があることなどを背景に、水素電池トラックに切り替えていくといったことの取り組みを行っている。



【梶田所長・堀永部長と】

令和6年10月30日(水)

- ◆公式代表団一行は、サンディエゴ市役所を訪問し、再生可能エネルギー施策調査を行った。
- ◆サンディエゴ市役所での調査終了後、サンディエゴ動物園保全研究センターを訪問し、動植物園施策調査として、館内の視察を行った。

サンディエゴ市役所(再生可能エネルギー施策調査)

- 時 間 10月30日(水)午前10時30分から正午
- 場 所 サンディエゴ市役所
- 対応者 ヘザー・ワーナー 氏
サスティナビリティ・モビリティ部門ディレクター
シェルビー・ブソ 氏
気候変動担当副部長 兼
サスティナビリティ・モビリティ部門ディレクター
マリッサ・ウェスターフィールド 氏
気候変動プログラムコーディネーター
ジェフ・ホヨス 氏
サスティナビリティ・モビリティ部
脱炭素化プログラムマネージャー

サンディエゴ市役所では、田中議長、ヘザー・ワーナーサスティナビリティ・モビリティ部門ディレクターからそれぞれ挨拶があった後、再生可能エネルギー施策の取組についての説明を聴取し、質疑応答を行った。調査の主な概要は下記のとおりである。

■田中議長による挨拶(概要)

本日はお忙しい中、私ども一行の訪問・調査を快く受け入れていただき心より感謝申し上げます。

今回、私たちは、名古屋市とロサンゼルス市の姉妹都市提携 65 周年

記念行事に参加するため派遣されましたが、せっかくの機会であるので、人口140万人の大都市であるサンディエゴ市における再生可能エネルギー導入に関する取り組みについて、是非とも調査したいと思っておりました。サンディエゴ市は、すべての市の施設を100%再生可能エネルギーサービスに移行する作業を開始していると伺っております。



【田中議長の挨拶の様子】

名古屋市においても、カーボンニュートラルの実現に向けた取り組みを進めることが喫緊の課題となっており、先導的な取り組みをされているサンディエゴ市の取り組みについて、今後の名古屋市における環境施策の参考とさせていただきたいと思います。

本日は、どうぞ、よろしくお願いいたします。

■ヘザー・ワーナーサステナビリティ・モビリティ部門ディレクターによる挨拶・説明(概要)

【サステナビリティ・モビリティ部門全体の概要について】

本日はお忙しい行程の中、サンディエゴ市役所まで訪問いただき感謝申し上げます。本日は、本市の環境施策の取組について、担当職員から順次ご説明させていただきますので、よろしくお願いいたします。

我々の部門では、気候変動計画、エネルギー施策、環境にやさしい交通手段の推進の3つの部署に分かれて環境対策を進めている。部門の特徴としては、部門として独立しているとはいえ、市役所の施策全般に関わってくることが多いことから、市役所を横断的に関係部署と密に連携をしながら施策を進めている。例えば、環境にやさしい交通手段の推進を行う部署では、交通公害をなくすことを目的に施策を推進しているため、自家用車から公



【説明を聴取する様子】

公共交通機関への乗り換え施策、自転車専用レーンの設置、歩行者空間の拡大などについて、市交通局をはじめとした関係部門と調整をしながら仕事を進めていく必要がある。エネルギー施策を推進する部署では、ガスや電気を供給する民間企業と連携をしながら主に市役所の建物の省エネ化・脱炭素化の実現に向けた取り組みを行っている。気候行動計画の部署では、環境全般の取り組みについて住民に啓発をしたり、市の計画の進捗管理を行っている。

■マリッサ・ウェスターフィールド気候変動プログラムコーディネーターによる説明(概要)

【気候変動計画の概要について】

昨今の異常気象や気候変動を現実としてとらえ、この状況による悪化を抑止していくことを目的にこの気候変動計画が策定されている。

地球温暖化につながる大気中の温室効果ガスを削減するため、2035年にゼロにすることを最終目標にしている。気候変動計画はいろいろなセクター、6つの戦略がある。



【説明を聴取する様子】

1つ目は建築の脱炭素化を進める戦略である。サンディエゴ市で排出される温室効果ガスの約5割は、既存建物、商業施設などの建物からの排出となっており、主に電気や天然ガスを使用することからの排出となっている。特に天然ガスの使用を削減する施策を目標の柱としている。2つ目はクリーンな再生可能エネルギーへの転換を進める戦略である。太陽光発電をはじめとした再生可能エネルギーの発電・利用促進、ガソリン車からゼロエミッション車・EV への乗り換え推進といった施策を目標の柱としている。3つ目は移動手段を自家用車から公共交通機関等への転換を図り、脱炭素化を進める戦略である。4つ目はごみを処理する際に発生する温室効果ガスの削減を進める戦略である。埋め立てによる温室効果ガスの発生などを抑止し、また、廃棄物のリサイクルを促進するような施策を目標の柱としている。5つ目は自然の力を活用した低炭素化を進める戦略で

ある。緑化を進めて、温室効果ガスを吸収し酸素を放出するといった自然の力を活用するため、都市部の緑化などを進めることを戦略の柱としている。6つ目は、水資源の再利用などを進める戦略である。サンディエゴを含むこの地域は、年間降雨量が少なく水が足りないことから、遠くの水源地からポンプを活用して水を供給している。そのポンプによる供給の際の過程において、多くのエネルギーを消費し、結果として温室効果ガスが排出されている。水の再利用などを進めることによって、ポンプによる水供給を抑止して、脱炭素化を進めている施策などを目標の柱としている。

この6つの戦略を進めつつ、より脱炭素化に向けた新技術開発などについて民間企業とも連携しながら、計画の目標達成にむけて進めている。

■ジェフ・ホヨスサステナビリティ・モビリティ部脱炭素化プログラムマネージャーによる説明(概要)

【民間の建物などに対する脱炭素化の取組について】

先ほどの説明にもあったが、サンディエゴ市で排出される温室効果ガスの約5割は、既存建物や商業施設などの建物からの排出となっていることから、この抑制が大変重要であり、民間建物の中における天然ガス利用の9割削減を目標としている。既存建物と新築とで戦略を分けている。

はじめに、新築については、天然ガスではなく電気を使用する機器を導入する建築物には、補助金を出すことで促進を図っている。住宅関係のディベロッパーなどの民間業者に対しては、補助金制度の説明や環境にやさしい企業イメージをつけることへのメリットなどを説明し、住宅関係の民間企業にとってもインセンティブが十分ある旨をお伝えしながら、協力を仰いでいる。機器の導入はイニシャルコストが高い一方、省エネ効果によるランニングコストが抑えられ、長期的な視点で見れば、結果として経済的にも優位性があることを説明している。現状の電源構成をみると全体の4割か



【説明を聴取する様子】

ら5割は既に再生可能エネルギーによる電気を利用していることから、天然ガスから電気に切り替えることが、すなわちクリーンエネルギーへの転換を進めていることとなる。

次に、既存建物へは、設備を天然ガス利用の機器から電気機器への転換を図っていくことを進めていく必要がある。まずは、いつまでにどのように進めていくのかについて、ロードマップとなる計画を作るところからのスタートとなる。サンディエゴ市では、来年度15万ドルの予算をもとにそのロードマップの計画を作成する予定。次には、建築基準法などでの基準作りが必要で、一定の大きさを超える建物については、天然ガスの利用量について報告義務を設けるなどの基準を作ることを検討している。また、物件の所有者は、既存の建物にイニシャルコストをかけて設備を入れ替えることについて、消極的になりがちであることから、連邦政府などからの補助金を活用し、経済的なインセンティブにより転換を進めていく。

■意見交換(概要)

【質 問】

市役所をはじめとした公共施設における再生可能エネルギーの利用促進に向けた取り組み状況はどうか。



【回 答】

【質疑の様子】

公共施設での天然ガス利用については100%削減を目標として掲げている。今後新たに建築する公共施設については天然ガスを利用する施設は作らないこととしている。一方、既存の公共施設については、既存の天然ガスを利用した機器から再生可能エネルギーを使った機器に転換していく必要がある。現状、予算の制約などがあり、一挙に進めることはできていないが、一部の図書館や消防署で転換を図っているなど順次進めている。現在、気候変動計画の進捗状況の取りまとめを行っており、その進捗状況によっては、今後更なる取り組みを進めていくことになるかもしれない。

【質 問】

再生可能エネルギーの推進を図るには、サンディエゴ市民の理解が不可欠であると考えているが、市民への普及啓発をどのように行っているか。

【回 答】

サンディエゴ市民にも人種ごとや民族ごとなどで構成される多種多様なコミュニティがある。再生可能エネルギーを推進することの意義やメリット(経済的なメリット、地球環境保護、健康、仕事が増えるなど)については、コミュニティごとに受け止めが異なってくるため、コミュニティごとに合わせた説明を丁寧にしていくことが大事である。

【質 問】

企業目線からいえば、環境規制に対応するためにコストなどが伴うことから、環境規制が厳しくないエリアを拠点に選ぶものと認識していたが、サンディエゴ市は、環境規制が厳しいにも関わらず、日系企業が数多く存在しており、企業誘致にも成功している。その要因についてどう考えているか。



【質疑の様子】

【回 答】

ご指摘のとおり、企業側の視点に立つと環境規制が厳しいことは、コスト増が伴い費用面においてデメリットにもなりうる。しかし、サンディエゴ市を含むこの地域は、従前より革新的なビジネスが生まれる地域として知名度があり、結果として優秀な人材が確保できるといったメリットもあり、そのあたりを総合的に勘案した結果なのではないか。環境規制の流れは、広がっており、いずれはどこでも規制するのであれば、今のうちに環境規制の厳しいサンディエゴの地に進出し、今後に備えていくとの考え方も要因としてあると思われる。



【ご対応いただいた
サンディエゴ市職員の方々と】

サンディエゴ動物園(動植物園施策調査)

- 時 間 10月30日(水)午後2時から午後4時
- 場 所 サンディエゴ動物園 保全研究センター
- 対応者 マギー・ラインボルド 氏
野生生物保護担当ディレクター ほか

サンディエゴ動物園保全研究センターでは、マギー・ラインボルド野生生物保護担当ディレクターから、説明を聴取・質疑応答しながら同施設の視察を行った。主な概要は下記のとおりである。

■サンディエゴ動物園保全研究センターについて(概要)

サンディエゴ動物園は、さまざまなテーマパークランキングで全米ナンバーワンに選ばれている人気動物園であり、東京ドーム約8個分に相当する敷地内に約650種・12,000頭の動物が飼育されている。同保全研究センターでは、教育・研究分野に力を入れており、子どもたちへの教育活動に関し、先導的な取り組みが行われている。



【センターの外観】

同保全研究センターの建物は、リサイクル素材の建材を使用するなど環境に配慮されている。2004年から同保全研究センターでの研究がはじめられている。

■視察の様子

【中学生・高校生に対する教育活動について】

今日は、中高生40名を対象にセンター主催のセミナーを開催している。こう



【説明聴取の様子】

いった中高生向けのセミナーでは、これまでに延べにして1万人以上の中高生が1セミナー2時間程度の学習をしている。現在のセミナーの内容は、その土地に棲息している動植物について教えている。この内容の教育プログラムは2022年の春に企画し、開始してばかりということもあり、受講者は約250名の生徒となっている。ここで学んだ生徒は、地元の学校に戻って、その土地固有に棲息している動植物の保全に向けた取り組み活動を行ってもらう。来週から、また新しいセッションを開始する予定である。今回のセッションは定員70名に対し3つの高校から250人の応募があり、セミナーの受講期間は、来年2025年5月までの予定である。サンディエゴ市内の高校からだけでなく、ロサンゼルス市の高校からも参加を予定している。実習室では、コンドル、カエル、カバなど5種類の遺伝子採取について、動物の見本を使って実習することを取り入れている。実習の目的は、実際の研究方法について、具体的なイメージを持ってもらうためや自然保護の精神を学んでもらうためである。こういった実習については、中高生にとって貴重な経験につながる一方、全員に実習の機会を提供することは不可能であることから、夏季の休暇時期の機会を通じて、中・高の教職員を対象とした夏期講習を実施している。実習で学んだ教職員には、そこで得た知識・経験を持ち帰ってもらい各学



【セミナーを行う実習室】



【動物の遺伝子採取の実習道具】



【視察の様子】

校で行う授業において、中高生へ実習を行うなどして展開をしてもらっている。これまでに約 2,000 人、約30カ国から中高の教職員の方々に受講してもらっている。また、実習には様々な道具・装置を使い、中にはとても高価な道具・装置があることから、受講いただいた教職員の在籍する学校に対して、実習に必要な道具・装置を貸し出して、それを使って実習の授業を行い、中高生に学んでもらう取り組みも併せて行っている。そのほかのプログラムとしては、大学院の学生向けに本格的な研究の講義を行っているなど、幅広く取り組みを行っている。

【質 問】

中高生への教育などの機会を通じて、サンディエゴの自然保護への啓発や取組を行っておられるが、現状、どのくらいの自然が失われ、その影響はどのようなものなのか。



【質疑の様子】

【回 答】

サンディエゴの沿岸線においては棲息動物の約90%は絶滅したといわれている。その原因は主にビーチの開発によるものである。サンディエゴ動物園では、教育機会を通じた取り組みのほか、サンディエゴ動物園サファリパーク内の約20ヘクタールにおいて、昔からの自然のまま残しているといった保全を行っている。

【動植物の保護・保存技術に関する研究・開発について】

サンディエゴ動物園では、動植物の保護・保存技術に関する研究・開発を行っており、センター内に専門の研究員を配置している。また、その研究・開発から得られる知識・技術を大学院生にも教えている。現



【説明聴取の様子】

在は AI 技術などの最新技術などを活用しながら動植物の保護・保全技術を日夜研究している。具体的には、動植物を観測する装置や観察小屋の設計などを行っている。ここで働く研究員は、基本的には理数系を学んできた技術者であり、このセンターで新たに動植物のことを学び、エンジニアとしての知識・技術を活用し、観測装置などの研究開発をしている。そのほかには、野生動物のホルモンの調査をすることによる生殖の研究や絶滅が危惧されている品種のカエルを繁殖させて、自然に帰すことなどを行っている。



【研究・開発を行うための執務室】



←【ゾウの首輪を持つ議員。首輪はGPS付で追跡調査するための観測装置。首と足にそれぞれ観測装置をゾウに装着し、その動作を把握し生態の研究に繋げている】



【研究・開発を行うための執務室内にある冷蔵庫。冷蔵庫の中には、動物の糞尿を入れている。生殖研究のために必要なホルモンの採取を、動物からの採血ではなく、これらの糞尿から採取して、分析調査を行っている】



【カエルなどの両生類を研究するための部屋。水槽の中には、絶滅の危惧に瀕しているカエルも飼育されている。南カルフォルニア山間部に棲息している品種を中心に300匹ほどのカエルが飼育されている。繁殖させて自然に帰した後も生息できるよう、帰す先の自然に上手く適合できるように飼育環境やエサに配慮している】

【動物細胞の冷凍保管施設】

何千という種類の動物の細胞の冷凍保管が行われている施設となる。1970年代から動物の細胞を集めており、中には世界で既に絶滅した3つの種の細胞が冷凍保管してある。動物の細胞は生きており、その細胞からクローンを作ることが可能である。これまでに絶滅した種ではないが、プシバルスキーという馬とフェレットのクローンを作っている。なお、冷凍保管してある3つの絶滅種の細胞からクローンを作る予定はない。動物の細胞の冷凍保管をしている目的は、主に遺伝子の研究や獣医への情報提供のためであり、必ずしもクローンを作るためというわけではない。なお、施設の災害時の対応として、停電時の発電機を備えたり、冷凍保管に必要な予備窒素を常備したりしてリスク管理を行っている。なお、停電対応としては、太陽光発電などにより自施設で発電ができれば、よりリスクに対応できるようになるが、現状では、建物全体の電力使用量の約15%を太陽光発電で賄っているところに留まっており、今後、より増やしていく必要があると考えている。



【視察の様子】



【動物細胞の冷凍保管施設】



【マギー・ラインボルド野生生物
保護担当ディレクターと】

令和6年10月31日(木)

- ◆公式代表団一行は、就学前児童施設(Parsons Preschool)を訪問し、児童・青少年育成施策調査として園内の視察を行った。
- ◆就学前児童施設(Parsons Preschool)での調査終了後、ロサンゼルス市役所を訪問し、児童・青少年育成施策調査として、青少年に向けたスポーツ施策(Play LA)の調査を行った。
- ◆ロサンゼルス市役所での調査終了後、市長職務代理者 中田副市長一行と合流し、在ロサンゼルス日本国総領事館を表敬訪問し、意見交換を行った。

就学前児童施設(Parsons Preschool)

(児童・青少年育成施策調査)

- 時 間 10月31日(木)午前10時から正午
- 場 所 就学前児童施設(Parsons Preschool)
- 対応者 チニエレ・ストーンハム 氏
ロサンゼルス市 レクリエーション公園局 総括副部長
トリッシュ・デルガノ 氏
ロサンゼルス市 レクリエーション公園局 担当職員 ほか

就学前児童施設(Parsons Preschool)では、はじめに、田中議長から挨拶を行った後、チニエレ・ストーンハムロサンゼルス市レクリエーション公園局総括副部長から施設の概要について説明を聴取し視察を行った。主な概要は下記のとおりである。

■就学前児童施設(Parsons Preschool)について(概要)

2008年の大不況の影響により、資金不足のために、ロサンゼルス市は就学前児童施設の閉鎖を余儀なくされていたものの、その後の新型コロナウイルス感染症の危機を契機として、ロサンゼルス市議会が中心となり、就学前児童施設を復旧・開設するために動き出すこととなり、順次整備され、現在に至っている。

就学前プログラムの目標としては、就学前の子どもたちが、年齢に応じた活動や教材を使用し、自尊心・創造性・学習能力・社会性などを伸ばすことができるような、安全で思いやりのある、また、やりがいをもって学習を行うことのできる環境を提供することとなっている。

■田中議長による挨拶(概要)

本日はお忙しい中、私ども一行の訪問・調査を快く受け入れていただき、心より感謝申し上げます。

今回、私たちは、名古屋市とロサンゼルス市の姉妹都市提携 65 周年記念行事に参加するため派遣されましたが、せっかくの機会ですので、ロサンゼルス市における就学前の子どもに対する施策について、是非とも調査したいと思っておりました。ロサンゼルス市の就学前プログラムの目標は、就学前の子どもたちが、年齢に応じた活動や教材を使って、自尊心、創造性、学習能力、社会性を伸ばすことができるような環境を提供することであると伺っております。日本においても、幼児教育の質の向上を図ることが重要であると認識されており、幼児の多様性に配慮しながら、幼児の学びや発達を促すような教育の充実に向けた調査研究が進められております。本日はどのような環境で実践されているのか、実際に認可就学前施設の現場を訪問させていただき、今後の名古屋市の児童福祉施策の参考とさせていただきたいと思



【会議室での様子】

います。本日は、どうぞ、よろしくお願いいたします。

【チニエレ・ストーンハムロサンゼルス市レクリエーション公園局総括副部長からの説明(概要)】

本日は、ようこそお越しいただきました。これから就学前児童施設の現在に至るまでの経緯について説明させていただいた後、園内の視察

をする予定をしておりますので、よろしくお願い致します。

就学前児童施設については、2008年までは26施設あったが、リーマンショックの影響により、市が財政危機となり、予算の制約の関係上、閉園させ2施設にまで減少した。その後、新型コロナウイルス感染症の流行時には、医療関係者や警察、消防などの生活に密着する必須の職業に



【チニエレ・ストーンハム氏(向かって右)による説明の様子】

従事している方々の子どもをお預かりする公的な施設の必要性に直面し、緊急措置として、臨時の就学前児童施設を13か所開設した。また、夏季の時期にはサマーキャンプという形で、夏季だけ特別に就学前児童施設を開設したりもしてきた。また、学校が閉鎖になり、オンライン授業に切り替わったときの対応として、経済的な理由等により、自宅にWi-Fi環境がなくオンライン授業を受講できない人たちを対象に、学習センターを設置して、オンライン授業を受講させたり、昼食の対応をしたりもした。そんな経験を経て、ロサンゼルス市議会では、公的な就学前児童施設の必要性を改めて認識することとなり、安価で質の高い就学前児童施設を整備していくという流れになった。

就学前児童施設の整備にあたっては、その財源として政府からの補助金などを活用しながら、就学前児童施設を順次整備していくこととなり、現計画では10施設をつくることとした。整備状況としては、現在、9施設が整備完了、1施設は整備中の状況となっている。就学前児童施設の運営については、9施設の内、6施設はロサンゼルス市レクリエーション公園局所管の直営で行っており、残りの3施設は、NPO法人が運営している。

■意見交換(概要)

【質 問】

日本の保育園の運営においては、市立もあるが、多くは社会福祉法人が運営しているのが標準的になっている。日本とロサンゼルス市の就

学前児童施設とを比較して、何か運営主体について違いがあるか。

【回 答】

就学前児童施設についてはロサンゼルス市が運営しているものもあれば、民間会社が運営している就学前児童施設もある。また、NPO 法人が運営している就学前児童施設もあり、様々な運営主体がある。



【質 問】

日本においては、保育園に入入ることを希望しても入ることが出来ないといった、いわゆる待機児童という課題がある。その待機児童が生じる要因の一つとして、保育士の配置基準や敷地の面積基準の制約から、児童数を多く預かることが出来ないといったことがある。



【質疑の様子】

その点、ロサンゼルス市では、待機児童の問題を含めて現状を教えてほしい。

【回 答】

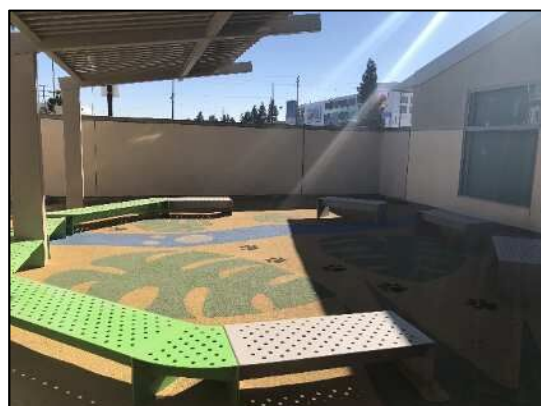
ロサンゼルス市全体においては、先ほどの話と少し重複するが、就学前児童施設については様々な運営主体が経営していることから、待機児童の課題というのはいらないと思う。ただ、ロサンゼルス市役所の付近はニーズが高く、待機児童が生じており、順番が回ってくるまでの間については、親族で対応を余儀なくされている状況はある。

ロサンゼルス市においても、日本と同様に、人員や面積について基準が定められている。就学前児童施設に従事する職員については、他の業種と比較し給料が低い現状があることから、なり手が少ない現状があり、ロサンゼルス市では、就学前児童施設に従事する職員の育成に補助金を打つなどして、その解消に努めているところである。

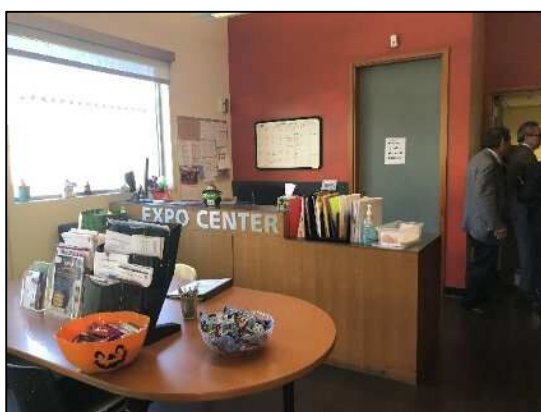
【視察の様子】



【就学前児童施設(Parsons Preschool)の入口。この施設では2歳児から5歳児まで、定員90名となっている】



【アウトドアクラスルーム。教室外で学習するためのスペース。柔らかい素材の床の仕様になっている】



【就学前児童施設(Parsons Preschool)の事務室。事務室の奥には体調が悪くなった就学前児童のための医務室を備えている】



【コミュニティルーム。大きなイベントや集会を行う時に使用する部屋】

【コミュニティルーム内には、キッチンを備えており、朝食・昼食・おやつを提供している。食事代については、各世帯の負担となるが、所得に応じて各世帯に対して、州からの補助金が出ている】

→





← ↑【広々とした園庭。普段は、三輪車やボールなどの遊具を使い遊んでいるとのこと。訪問時には、ハロウインのイベントを行うため、各所にて様々な飾り付けがされていた。】



↑ ↗
【教室内。4歳児クラスの児童を保育している。保育料は1週間で160～170ドルほどの設定(民間会社の運営する就学前保育施設の保育料は1週間で800～1,500ドルほど)】

【チニエレ・ストーンハム副部長・トリッシュ・デルガノ担当職員と】 →



ロサンゼルス市役所(児童・青少年育成施策調査)

■時 間 10月31日(木)午後1時30分から午後2時45分

■場 所 ロサンゼルス市役所

■対応者 ベロニカ・ポランコ 氏

ロサンゼルス市レクリエーション公園局 Play LA 担当職員

ロサンゼルス市役所では、田中議長、ベロニカ・ポランコレクリエーション公園局 Play LA 担当職員からそれぞれ挨拶があった後、青少年に向けたスポーツ施策(Play LA)についての説明を聴取し、質疑応答を行った。調査の主な概要は下記のとおりである。

■田中議長による挨拶(概要)

本日はお忙しい中、私ども一行の訪問・調査を快く受け入れていただき心より感謝申し上げます。

今回、私たちは、名古屋市とロサンゼルス市の姉妹都市提携 65 周年記念行事に参加するため派遣されましたが、せっかくの機会ですので、2028 年に夏季オリンピックの開催を控えたロサンゼルス市におけるスポーツ施策について、是非とも調査したいと思っておりました。



【田中議長の挨拶の様子】

ロサンゼルス市は、2028 年に 3 度目の夏季オリンピック・パラリンピックの開催を控えており、すべての青少年に対し、質の高いスポーツにアクセスする機会を安価に提供する Play LA プログラムの取り組みを行っていますと伺っております。

名古屋市においては、2026 年にアジア・アジアパラ競技大会が開催される予定であり、子どものスポーツの充実を掲げ、学校や地域における運動機会の充実に取り組むこととしています。Play LA プログラムの取り組みを今後の名古屋市におけるスポーツ施策の参考とさせていただきたいと思います。本日は、どうぞ、よろしくお願いいたします。

■ベロニカ・ポランコ レクリエーション公園局 Play LA 担当職員による挨拶・説明(概要)

本日はお忙しい中、ロサンゼルス市役所に訪問いただきまして感謝を申し上げます。昨日のロサンゼルス・ドジャースの優勝の影響で、私の所属するレクリエーション公園局においては急用に追われてしまい、時間の都合を含めご迷惑をおかけしました。本日は、私の方から、映像を見つつ、解説を加えながら、青少年に向けたスポーツ施策(Play LA)の概要について、ご説明させていただきます。

【青少年に向けたスポーツ施策(Play LA)の概要について】

Play LA は、ロサンゼルスの子どもたちにスポーツに触れる機会をもってもらうための取組である。施策としては、男性・女性・障害がある方・所得が低い家庭向けと4つに対象を分けて展開している。参加料は、男性が10ドル、女性・障害者・低所得者が無料となっている。現在、約180のスポーツセンターなどの施設を活用し、約50万人の子どもたちが参加している。

Play LA の施策の目的の一つとして、女性によるスポーツの参加促進に取り組んでおり、女性を対象とした専用のプログラムを用意している。例えば、ロサンゼルス市に拠点を持つプロバスケットボールチームやプロ野球チームに協力いただき、選手やコーチからスポーツを教えてもらうなども行っている。サッカーやソフトボールにおいては、ナショナルチームのコーチや選手にも協力いただいている。

低所得者へは、経済的な理由によりスポーツに参加する機会を逸しないように、例えば、乗馬などの費用がかかるスポーツの体験プログラムやユニフォームが経済的に購入できない場合にはユニフォームを無償



【説明を聴取する様子】

で提供した上で参加していただくなどの取組を行っている。また、水泳においては、自宅にプールがある裕福な家庭では日頃より水泳に親しむ機会がある一方、自宅にプールがない家庭では水泳に親しむ機会が少ない。そのような子どもたちに水泳を体験してもらうため学校等と提携し、45施設のプールにおいて水泳のプログラムを受講できるような環境を整えている。家庭環境・賃金格差を理由に、スポーツに触れる機会を損なうことのないようにすることが、この施策の大切な目的の一つである。

障害者向けでは、現在12のスポーツ競技のプログラムを提供している。例えば、目に障害がある方を対象としたサーフィンやサッカーのプログラムがあったり、身体に障害がある方を対象としたバスケットボールのプログラムがあったりする。障害がある方が、これまでやりたくともできなかったスポーツに参加できる機会があることで生活が充実したとの声をいただいたりしている。また、障害がない方向けのプログラムの中でも、例えば、目を隠したりして、障害がある方が行うスポーツの体験を行ったり、障害がある方もない方も一緒になって柔道をやってみたりと、障害がある方の気持ちに寄り添うことを目的とした取り組みを行っている。

全般的にいえることとして、単にスポーツを楽しむことのみならず、スポーツを通じて、リーダーシップやスポーツマンシップを身につけること、交友関係を広げること、自己肯定感を高めることなども、この施策を通じて得られる効果となっている。

最後に、Play LA の財源であるが、ロサンゼルス市の予算のほか、これまでには、国際オリンピック委員会から約1億6千万ドルの協力をいただいている。また、ロサンゼルス市を拠点とする8つの各種プロスポーツチームからは費用面でご協力いただいていたたり、スポーツ用品メーカーからは、プログラムを教えるインストラクターの養成費用についてご協力をいただいたりしている。なお、インストラクター養成では、スポーツ競技種別ごとで育成する必要があることはもちろんのこと、男女の違いや年齢に応じた教え方など、さまざまな観点からインストラクターの養成をしている。また、ロサンゼルス市交通局では、駅やバス停までの移動手段としてスケートボードが活用されていることから、スケートボードの普及が、ひいては公共交通機関の利用者の増加につながることを見据え、スケートボードのプログラム修了者を対象に、スケートボードやヘルメットを無料で提供していることを行っている。

■意見交換(概要)

【質 問】

この施策を進めることにより、様々な子どもたちに広くスポーツに触れてもらう機会になると思う。そういった取り組みにより、ひいてはオリンピック選手やプロスポーツ選手の養成にもつながると思うが、そういったことも施策の目的の一つとなっているのか。



【質疑の様子】

【回 答】

ご質問にあったように、この施策の推進によりオリンピック選手が出てきてくれればうれしいという思いはあるが、この施策の目的はあくまで、様々な子どもたちに広くスポーツに触れてもらう機会そのものである。こういった施策がなければ、スポーツに触れる機会に巡り合わない環境の子どもたちが大勢いるのが現状であり、そういった子どもたちにスポーツ体験を通じて新しい体験や世界に触れてもらうことが一番の目的である。アメリカは車社会ということもあり、大人になってからも運動やスポーツをする機会をもたず、運動不足などの要因により肥満になり疾患のリスクが増えてしまうといった問題がある。子どもの時期からスポーツを通じて体を動かす楽しさを体験することにより、そういった問題を解消してほしいといった思いがある。また、障害のある方のスポーツを障害のない方が体験することは、バリアフリーの意識醸成にもつながるものと考えている。

【意 見】

とてもすばらしい理念のもとでの施策であることから、行政のみならずプロスポーツチームや民間企業など様々なところから協力がいただけているものと思う。今後もぜひこの施策を続けてほしい。



【ベロニカ・ポランコ担当職員と】

在ロサンゼルス日本国総領事館（表敬訪問）

■時 間 10月31日(木)午後3時から午後4時

■場 所 在ロサンゼルス日本国総領事館

■対応者 曾根 健孝 総領事

在ロサンゼルス日本国総領事館では、市長職務代理者 中田副市長、田中議長、曾根総領事から、それぞれ挨拶があった後、意見交換を行った。表敬訪問の主な概要は下記のとおりである。

■市長職務代理者 中田副市長からは、日ごろの姉妹都市交流へのご支援に対する謝意が述べられるとともに、今後についても引き続き協力をお願いしたい旨の挨拶があった。

■田中議長による挨拶（概要）

本日はお忙しい中、私ども名古屋市のロサンゼルス市姉妹都市交流公式代表団の訪問に際し、曾根在ロサンゼルス日本国総領事はじめ皆様にお会いする機会を設けていただき、心より感謝申し上げます。

公式代表団には、私のほかに各会派を代表して、自民党の中里高之議員、名古屋民主の小川としゆき議員、公明党の金庭宜雄議員の3名が参加しております。

姉妹都市連携65周年を迎えた記念すべき年に、ロサンゼルスを訪問させていただけることを大変うれしく思っています。

名古屋市の会としましても、今後、ますます、両市の友好・交流が深まり、未来に向かって、より強い親善の絆で結ばれていくことを切に願うものであり、そのために精一杯努めてまいりたいと存じますので、引き続きご支援・ご協力を賜りますよう、お願い申し上げ、私からのご挨拶とさせていただきます。



【田中議長の挨拶の様子】

■曾根総領事による挨拶(概要)

名古屋市とロサンゼルス市との姉妹都市提携65周年、誠におめでとうございます。名古屋港とロサンゼルス港との姉妹港提携を含め、65年という長きに渡り、今日まで交流が続いていることは、大変素晴らしいことと思う。また、ロサンゼルス・名古屋姉妹都市委員会が、友好交流に向け精力的に取り組んでいただいております、改めて感謝申し上げます。



【曾根総領事】

昨日、ロサンゼルス・ドジャースが優勝したことで、この街は大変な盛り上がりを見せている。4年後には、オリンピックがこの地で開催されるなど、ロサンゼルスはこれからも盛り上がりを見せていくと思う。私自身、総領事として赴任して2年になるが、ロサンゼルスの日本に対する関心が日に日に高まっていることを実感している。例えば、スポーツの分野においては、野球、サッカー、バスケットなどのアメリカのプロスポーツにおいて日本人選手が所属し活躍していること、また、文化面においては、映画でアカデミー賞を受賞したことなどで、日本が大変注目されることが多くなった。今後も、この流れに乗って、総領事館としても、さらに日本の魅力を発信していきたい。名古屋市とロサンゼルス市との姉妹都市関係の更なる交流強化に向けて総領事館としても協力したい。今後ともよろしくお願いします。



【意見交換の様子】

■曾根総領事の挨拶の後、ロサンゼルスオリンピックを見据えた日本食を売り込む取組やスポーツを通じた両市の相互交流の推進などについて意見交換を行った。

■意見交換の後、曾根総領事へ記念品の贈呈を行い、表敬訪問を終了した。



【曾根総領事を囲んで】